

たぐすい

TAKUSUI
No. 670

8

August. 2012

発行 (財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



子ども達が作った干だこ (マリンスクールから)

NEWS 平成25年度 農林水産施策の推進に係る政策提案会が開催
～3項目を重点的に提案～

JF室津が灯台監視活動協力功績を受賞 ～兵庫県で初めての受賞～

マリンスクール開催

Report グループリーダー夏期研修会を開催 ～但馬地区漁協青壮年部連合会～

平成25年度 農林水産施策の推進に係る政策提案会が開催 ～3項目を重点的に提案～

JF兵庫漁連

8月1日(水) 神戸市中央区のひょうご女性交流館において、兵庫県主催の「平成25年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」が開催されました。この提案会は、毎年県の翌年度予算や重要施策に系統団体の意見を反映させるために、農政環境部長はじめ県幹部が全員出席して開かれるものです。

会議の開会に先立ち、県農政環境部の伊藤部長が、「TPP問題など、水産業を巡る環境は重要な局面を迎えている中で、本県としては水産業を重要な産業と認識している。兵庫県の水産業が次世代へ引き継がれていけるような施策を進めていきたい。」と主催者挨拶をされました。

これに対し、JFグループ兵庫水産政策協議会を代表してJF兵庫漁連の山田会長より、「瀬戸内海関係10漁連・漁協による豊かな漁場の再生の取り組みについては、去る6月25日、自民党国会議員による議員連盟が設立されるに至った。これもひとえに井戸知事をはじめ県の皆様のご助言・ご指導の賜物であり、厚く御礼申し上げますとともに、今後も関係府県の漁連・漁協が力を結集して取り組んでいくので、引き続き県のご支援・ご指導をお願いしたい。また、軽油引取税並びに農林漁業用A重油の免税・還付措置については、要請活動の

結果、延長されたが、我々JFグループが求める恒久的な措置となるよう、引き続き、県の国への働きかけをお願いしたい。」と挨拶されました。

引き続き、JF兵庫漁連の山口専務より、「食育の推進並びに地産地消の推進」、「但馬地区における総合的な漁業振興策の推進」、「本県基幹漁業であるノリ養殖漁業を補完する新たな養殖業の推進策」の3項目を重点的に提案し、これらのテーマを中心に、県幹部とJFグループ兵庫水産政策協議会委員による活発な意見交換がなされました。



— 平成25年度 政策提案の内容 —

重点要望事項

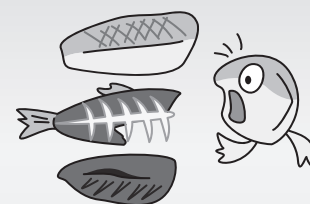
1. 食育の推進並びに地産地消の推進
 - ① 県下小学生を対象とした食育活動(魚料理教室)推進への支援
 - ② 学校給食における「兵庫県産食材」の使用率の向上
2. 但馬地区における総合的な漁業振興策の推進

<継続要望>

 - ① 但馬の水産物のブランド化及び水産・加工・観光業等、関連する異業種間の連携体制の構築について
 - ② 沖合底曳業者に対する継続的な直接支援策の構築

<新規要望>

 - ③ 但馬地区沿岸漁業の振興対策の推進
3. 本県基幹漁業であるのり養殖漁業を補完する新たな養殖業の推進策
 - ① のり養殖を補完する新たな養殖業の推進並びに黒のりの新たな加工形態の事業化に係るパイロット事業への支援・指導
 - ② 平成25年の区画漁業権の一斉更新における新規養殖業に係る漁業権免許への配慮



その他の要望事項

1. 漁場再生の取り組みについて
2. 経営安定化のための国への働きかけについて
3. 漁業用燃油対策に関する国への働きかけ
 - ① 漁業用燃油に係る税制措置として、漁業に使用する軽油に係る軽油引取税の恒久化並びに農林漁業用A重油に係る石油石炭税の免税・還付措置を恒久化すること
 - ② 「漁業経営セーフティーネット構築事業」を拡充強化すること

JF室津が「海の日」 海事関係功労者大臣表彰を受賞 ～兵庫県で初めての受賞～

国土交通省は、毎年、「海の日」にあわせて、海で活躍された人や団体に贈る海事功労者などの表彰を行っています。本年度の表彰式は7月17日（火）に神戸市内で行われ、受賞者約110人が出席しました。様々な分野での表彰があるなか、灯台監視活動協力功績については、長年にわたり航路標識の維持管理に努め、海上交通の安全確保に貢献したことが認められた方や団体に贈られるものです。今年は全国で4 JFが選ばれ、本県からはJF室津が初めて受賞しました。

表彰式にはJF室津 中川 照央組合長が出席し、第五管区海上保安本部長 石指 雅啓本部長から表彰を受けました。

おめでとうございます。



石指本部長から表彰を受ける中川組合長

「浜の暮らしを守る信頼の金融へ」をテーマに ～第10回JFマリンバンク全国大会～

JF兵庫信漁連

JF全漁連、農林中央金庫共催の「第10回JFマリンバンク全国大会」が7月11日（水）東京・港区のホテルで開かれました。「浜の暮らしを守る信頼の金融へ」をテーマに開催された大会には、全国から貯蓄推進委員、優良JF女性部、JF信漁連、全国のJF、JF全国女性連の関係者等約150名が出席しました。

JF岩見 井上 仁組合長、JF育波浦 小溝 政二組合長をはじめ、全国の推進委員に対する感謝状が贈呈され、さらに今回が10回目の大会という節目を記念し、都道府県女性連に対して日頃の活動に対する感謝の気持ちを込めて、感謝状が贈呈されました。

次に、北海道 南かやべ漁協女性部による「女性部と共に生きて」と題した事例発表がされました。

また、10回記念講演として、NHK大相撲解説者でもある舞の海秀平氏による「決してあきらめない」～可能性への挑戦～をテーマに講演が行われ、会場は大いに盛り上がりました。大会はこのあと、大会宣言を採択して閉会しました。



今年も開催！ 平成24年度マリンスクール

JF兵庫漁連 指導部

コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合の連携活動として毎年実施しているマリンスクール(2コース)が今年も開催され、参加した親子連れ(約180人)は楽しく漁業や県内産水産物について学びました。

第30回となるJF神戸市コース(7月26~27日)では「せり市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「ヒラメ稚魚の放流」、「タコの塩もみ」などを体験したほか、県水産技術センター 小田垣 寧専門技術員をお魚博士として迎え、子供たちに県内の漁業や水産物の話をして頂きま

した。また、稚魚の放流では、神戸市立栽培漁業センターの協力で魚を増やすことの大切さを学びました。

一方、第2回となるJF兵庫漁連SEAT-CLUBコース(8月3~4日)では、お魚博士として県水産課 望月 松寿専門技術員に協力頂き、晴天のもと「干しダコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」に挑戦しました。みなさん、普段あまり魚にふれる機会がないのか、どの内容も親子で一緒に目を輝かせて取り組んでいました。



ヒラメ稚魚を放流しました!(JF神戸市コース)



親子で干しダコ作りに挑戦(SEAT-CLUBコース)

どちらのコースも、終了後のアンケートでは多くの方が来年も参加したいとのことで、とても楽しんでもらえたようです。JF兵庫漁連では、このマリンスクールを通して、漁業や水産物をより広く身近に感じてもらえるよう、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

「24年度漁船保険事務研修会」開催

兵庫県内海漁船保険組合

兵庫県内海漁船保険組合(山田 隆義組合長: JF神戸市)は、7月3日(火)神戸市内のホテルにて平成24年度漁船保険事務研修会を開催しました。内海地区39JFの組合長並びに担当役職員、県市町担当者、JF兵庫漁連他系統団体代表者等150余名の参加がありました。研修会は山田組合長の開会挨拶、来賓として県水産課 藤澤 崇夫課長および漁船保険中央会 三宅 哲夫副会長の挨拶で始まりまし。無事故漁船所有者等賞状授与伝達式では、水産庁長官表彰として無事故漁船所有者の部でJF淡路島岩屋所属「住吉丸」が受賞されたほか、漁船保険中央会長の部門毎の表彰が行われました。

続いて、事務局から平成23年度事業報告と24年度事業計画につき説明があり、24年度の事業推進方策について、各JFに対する協力体制の確認が行われました。

また、県防災計画課 岡本 早苗主査から「来るべき東南海・南海地震への対策について」、名城大学大学院 鈴木 輝明特任教授からは「豊かな漁場の再生」についてそれぞれ講演があり、参加者は熱心に聴講していました。

閉会にあたって、前田 吉計副組合長(JF南淡)は、参加者に対する労いの言葉を述べるとともに漁船保険事業の今後の支援につき理解を求め、研修会を終了しました。

無事故漁船所有者に水産庁長官表彰



地震に対する備えの認識を新たにしました。



グループリーダー夏期研修会を開催

但馬地区漁協青壮年部連合会

但馬地区漁協青壮年部連合会(山中 康正会長)は、7月27日(金)新温泉町内のホテルにて平成24年度グループリーダー夏期研修会を開催しました。沖合漁業に従事する部員が多い当地区では、沖合漁業が端境期となるこの時期に毎年開催しているもので、今年は約40名が参加しました。

まず、7月上旬に静岡県で行った静岡伊豆キンメダイ視察の報告(下記に報告要旨)があり、その後2つの講義が行われました。最初に「底びき網における混獲ズワイガニ排出機構」として県農林水産技術総合センター



大谷 徹也主任研究員から、漁期外のズワイガニ混獲防止に向けた兵庫方式の網の説明と、その効果について講義がありました。次に「日本海の海流・水温の変化」で独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 渡邊 達郎氏が講義を行いました。日本海の暖水域、冷水域の動きや、水温の変化について詳しく講義がなされ、参加者は熱心に聞き入っていました。



兵庫方式の網の説明を受ける参加者



日本海の海流・水温について講義がありました

「静岡伊豆キンメダイ視察報告(要旨)」

～但馬地区グループリーダー研修会から～

今回の但馬地区漁協青壮年部連合会の視察は、静岡県のキンメダイ生産地域である西伊豆地方とし、7月5日(木)～7日(土)に行ってきました。現地では静岡県水産技術研究所伊豆分場、稲取漁港などを訪れキンメダイの漁獲技術・鮮度保持技術・資源保護の取組について学習しました。

静岡県水産技術研究所では伊豆の漁業やキンメダイの生態・資源保護などを学習し知識を深めました。続いて訪れた稲取漁港ではキンメダイの共同販売方式を見学しました。共同販売だからこそその品質管理の難しさや、



キンメダイの選別風景(稲取漁港)

他地区との競合などの現地ならではの話が聞けました。特に、共同販売形式の水揚げ金額は、本数に平均単価を

かけて算出するため、1人が魚に雑な扱いをすると「稲取キンメ」の看板に傷がつき、単価も下落し全員の収入が減るため、魚の扱い方を徹底することがとても難しいとの話しでした。

資源管理では、キンメダイ釣りをする人の増加と、中国製漁具の普及による漁獲圧の増加、他県との入会による調整の難しさなど、身につまされる話を聞く事が出来ました。

また、青年部同士の交流では、どんなに漁業の中身が違って漁師という同じ職業人として通じ合うものがあり、非常に刺激になる機会をもつ事が出来とても有意義な視察となりました。

(発表者：津居山青壮年部 山田 慎一)



青年部間での意見交換は充実したものになりました。

第18回全国青年漁業者グループリーダー研究集会・ 全国漁青連設立20周年記念事業 in 仙台

兵庫県漁協青壮年部連合会



7月3日(火)～4日(水)にかけて「第18回全国青年漁業者グループリーダー研究集会・全国漁青連設立20周年記念事業」が宮城県にて開催されました。

グループリー

ダー研究集会は、水産庁の「漁業の担い手・育成対策総合推進事業」の一環として、青年漁業者グループリーダーの資質向上を図ることを目的として開催され、本年は国民の「魚離れ・消費減退」に歯止めをかけるための具体的な方策について、水産庁増殖資源部 上田 勝彦 情報技術企画官より「魚食の復興」と題して基調講演がなされました。「魚食普及」ではなく、以前の日本の食生活に戻し、「魚食復興」を目指すべきだとの話がなされた後、パネルディスカッションを通して議論が交わされました。



「魚食復興」を訴える上田氏

震災復興はまだまだ続きます……

翌日に行われた20周年記念事業は、宮城県南三陸町を視察し、参加者は甚大な被害をもたらした東日本大震災の爪跡を目の当たりにしました。津波被害を受けた地域はやっとガレキ処理が進み出した状態で、積み上げられたガレキはいまや堤防より高く、当時の被害の凄まじさを見せ付けられました。

続いて、水ダコの出荷で活気が戻りつつあるJFみやぎ 志津川支所の荷捌き所を視察しました。同支所 高橋指導課係長によると、1,000隻あった船が現在56隻になり、組合員も減ってしまったけれど、現在すべての作業を共同化したことにより、若い人が入ったり跡取りが戻ってきたりと、新しい力も加わっているとのこと。

震災復興を叫びながらも、だんだんと風化しつつある現状の中、いま一度立ち止まり、もう一度私たちにできる被災地支援を考える必要があるのではと感じました。



水ダコの出荷風景



JF泉佐野 青空市場視察や大型船操船体験 など研修

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会



JF泉佐野での漁船見学

初日は、まず大阪府泉佐野市のJF泉佐野を訪れ、同JFが運営する青空市場で販売されている魚を見たり、係留された漁船や競りを見学した後、地元漁業者との情報交換も行いました。次に、同市内の東邦製綱(株)においてワイヤーロープの製造工程を見学し見聞を深めました。



ワイヤーロープ製造工程の見学の様子

翌日はヤンマー塚口工場を見学しました。船用エンジンの製作工程について詳しく解説があり、参加者はなかなか見られない工場の様子を興味深く見入っていました。意見交換の場では、参加者から「燃油価格の高騰する中、低燃費エンジンの供給してほしい」など様々な意見が出されました。最後に、大型船の操船体験とおして安全操業に繋げようと、神戸市内の大阪湾水先区水先人会の施設を訪れ、大型船シミュレーターの体験実習を行いました。普段、乗っている船の感覚と違い、なかなか利かない舵に苦労したようで、大型船は旋回しにくいということが実感できたようです。

2日間をとおり、様々な分野の見学ができ、充実した研修会となりました。



ヤンマー塚口工場にて研修



大型船シミュレーションを体験



JF淡路島岩屋青年部「岩屋はや潮会」は地元の石屋小学校附属幼稚園の体験授業として、6月27日(水)に岩屋海水浴場で地引網大会を開催しました。

地元の海を知り、大切に思う心を育てることを目的としたこの地引網大会も今年で9年目。みんなで海浜清掃を行った後、いよいよ地引網漁スタート! 網を仕掛ける漁師さんの姿に、園児が期待の眼差しを送ります。

使用する地引網は、全長40m。たくさん魚がとれることを願いつつ、園児・保護者に加え、青年部メンバーと一緒に網を引き、重たい網の中にたくさんの魚が見え

いっぱいとれたよ! わくわく地引網大会

JF兵庫漁連

てくると、子ども達から大歓声があがりました。

今回参加した園児は27名、青年部は15名。園児たちは、タイ・カレイ・アナゴ・サメなど生きている魚を見て、直接さわって、初めての感触を楽しんでいました。

漁業を知り、魚とのふれ合いを通じて、海が大好きな子どもが増えることを願います。岩屋はや潮会の皆さん、お疲れ様でした。

たくさん獲れてみんな大喜びでした。

網を仕掛ける部員ら



みんなで力いっぱい引っ張りました!



大輪田塾だより

～「平成24年度 大輪田塾県内研修」～

7月24日(火)・25日(水)の2日間をかけて、県内研修を但馬地区で行いました。

初日は、香美町香住区の但馬漁業センターで「但馬の漁業について」と題し、県但馬水産事務所 眞鍋課長から講義を受け、但馬の漁業について認識を深めたのち、但馬漁業無線局を見学しました。次に但馬水産技術センターへ移動し「但馬地区の水技研究」について但馬水技センター 中村所長から、また、「水産物の鮮度保持」について同センター 岡田研究員から講義がありました。また、平成21年に竣工した調査船「たじま」の船内見学もありました。



▼調査船「たじま」を見学しました

▲但馬無線局で無線事業について知識を深めた



JF但馬 守山参事の講義



JF浜坂町 川越組合長の講義

また、宿舎では、大輪田塾修了生を交えた懇親会があり、親交が深まった研修となりました。

内海側の漁業者は、船の大きさや設備の違いもさることながら、外国と漁場を接するという現実など、普段の操業からは想像できない漁業が同じ県にあるということを再認識することができたようです。

なお、誌面をお借りしまして、この度の研修でお世話になりました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



姫路城を稲で描こう

ひめじ田宴アート

田んぼをキャンパスに見立て、色とりどりの稲で姫路城を描く「ひめじ田宴アート」の御田植え祭が6月16・17の両日、姫路市夢前町玉田の圃場で開かれ、親子連れや学生ら約500人が参加しました。

「ひめじ田宴アート」は、修理中の姫路城に代わって観光を盛り上げようと、JA兵庫西や地元の企業団体で作る実行委員会が2008年から始めました。デザインは、一般公募の中から神戸芸術工科大学2年の山中愛さんの作品。姫路城の後ろで白鷺が羽を広げた美しく勇ましい姿を、1.6haの水田に白稲や紫稲計6品種、約25万株の苗で表現します。

16日の神事では、早乙女に扮したJA新入職員10人と、実行委員長を務める市村幸太郎代表理事組合長、JA兵庫信連の中村芳文代表理事理事長、井戸敏三知事、石見利勝姫路市長が神田に苗を植えました。神事に参加した職員は、「機械ではなく自分の手で直接苗を植えることで、食と農業の大切さや大変さがより体感でき、いい経験になった」と話します。

会場ではトラクターの試乗体験や野菜の作付け体験もあり、約100人の子どもが農業を楽しみました。

田宴アートの見頃は7月中旬からで、10月には収穫祭を開きます。



神田に苗を植える早乙女ら

「2012国際協同組合年」記念事業 キックオフ・イベント 「協同組合の可能性を探る シンポジウム in 神戸」を開催

6月2日（土）、近畿労働金庫兵庫地区統括本部では、賀川記念館・メモリアルホールにて「協同組合の可能性を探るシンポジウム in 神戸」を開催しました。

シンポジウムの第1部は、野尻武敏 神戸大学名誉教授（元コープこうべ理事長）による「基調講演」、第2部は、兵庫県生協連・全労済・ろうきん・NPOの実践者を招き「報告セッション」を行いました。

土曜の午後にも関わらず、NPO・企業・学生などのさまざまな分野の方をはじめ、ろうきん・全労済・生協の職員が参加しました。定員を上回る約90名が参加し、会場は満席で座席を追加するほどでした。

参加者からは「協同組合の果たしている役割が良く分かった」「協同組織で働く喜びと責任を感じた」「協同組合やNPOの活動を知る機会をいただき勉強になった」「地域でNPOが果たす役割が大きいことが分かった」「協同組合とNPOとの連携に期待したい」などの声が多数寄せられ、とても好評でした。



講演される 野尻武敏 名誉教授



約90名が集いました。



旬に想う

写真と文
遊方子

南蛮菓子とコルク

◆「南蛮」とは南方の野蛮人の意であるが、古代の中国ではインドシナなどの南海の諸國のことをいった。日本では室町末期から江戸時代、南洋諸島から渡来したり、彼の地を経由して入る西欧の品々に、南蛮〇〇と冠せて称した。言葉に異国の珍しい品という感じがあり、南蛮菓子などは珍重されたという。今日でも、カステラ・ポーロ・金平糖が継承され売られている。日常に使うポルトガル語に「パン」がある。スペイン語もpanというらしいが、歴史的な状況からポルトガル語のpaoが転訛した説が妥当なようだ。僅かながら、現代の生活の中に、大航海時代の名残りが息づいていて、不思議な感じでもある。

◆ポルトガルはイベリヤ半島の西部、九州の倍ほどで国土面積の大きくはない国であるが、言語文化としての影響は大きい。今、九千万人程がポルトガル語を話しており、日本が取り入れた言葉では「衣」に関するものが多い。メリヤス、ビロード、ボタン、ラジャ、キャラコ、サラサ、ジバン、カップがある。菓子では先のポーロ・カステラ・コンペイトウがあり、またオルガン・タバコもそうで、煙草と一緒にキセルも伝来した。キセルはポルトガル語でなくカンボジャ語だと『広辞苑』で著名な新村出博士が、精密

な考証をされている。

◆コルクは、洋酒瓶の栓として使われる。子供の頃にキルクと覚えた。今、赤ワインが健康に良いとして娘らが買って来る。筆者はアルコールに弱く飲めぬが、コルク栓はコレクション風に溜まっている。コルクカシ（樫）の樹皮を剥ぎ取ったもので、軽くて弾力に富み、空気や水を通さない。熱の不良導体であり、防音や防湿に最適な性質を持っている。このコルク樹の産地はポルトガルを主に、スペイン、モロッコ辺りで採取される。日本には明治以前に渡来しているが、その経緯は司馬遼太郎『街道をゆく／南蛮のみち』に詳しい解説がある。

◆幕末から明治期に活躍した新聞人の草分けの「岸田吟香」という人。眼病を患って横浜で著名な医師の点眼薬で見事に快癒する。彼はこの目薬の売出しを考え、医者からも快諾を得て大儲けをする。売出しに際し、瓶の栓に何を使うかで困り、友人に相談した結果、異人の飲んだ洋酒瓶の古コルクを使う事になって、これを細工し事業は大成功する。その友人「奥勝重」という人が、コルク業界の始祖として、上野谷中の墓地に頌徳碑が建立されている。日本に自生のアベマキも厚い樹皮層がコルク質で代用品になるが、品質は余り良くないそうだ。南蛮菓子に始まるポルトガルの風が、心地よく吹き過ぎるようで…。



栂の木

大輪田塾 第8期生 入塾募集の締め切迫る!

将来、JF組織を支えていける人材育成を目的に開設された「大輪田塾」では第8期入塾生を募集しています。締め切りは8月末日と迫ってきています。

入塾希望をされます方はお早めにお申し込み下さい。

- ◎**応募資格** ① 原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
② 原則として、JF関係役員歴10年以上かつ45歳未満
のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者
- ◎**在籍年限** 原則2年（最長3年）

8月末に募集締め、その後、面接を行い審査委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。積極的な応募をお待ちしています。

問合せ先(事務局)：(財)兵庫県水産振興基金 TEL 078-919-1331

表紙の言葉



マリンスクールの干しダコ

夏の風物詩として親しまれている干しダコです。干しダコは、夏場に獲れたマグロを天日で干して作られ、保存食としても利用されていますが、最近では作る漁家が少なくなっているようです。竹串でピンと足を張って乾され、潮風に揺れる姿。かつては白い砂の見える浜に乾されていたものが、現在はコンクリートの上ということが多くなっています。ところで、この写真、どことなくユーモラスですよ。乾されたタコと地面に映ったその影は、たくさんの宇宙人がやって来たような……。青い空、白い地面に赤いタコ。真夏を感じさせる一枚でした。



3大学との 消費流通検討交流会を開催

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会



各テーブルで部員が指導しました

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西 正起会長・JF伊保）は、関西学院大学をはじめとした県内の大学と交流を深め、水産物のPRや漁業の現状、環境について情報発信を行っています。

昨年12月20日（土）には、水産会館において甲南大学、甲南女子大学、神戸薬科大学の学生ら約25名を対象に消費流通検討交流会を開催し、調理実習のほか、漁業の現状や、瀬戸内海環境再生の取り組みなどの話を通して交流を深めました。

調理実習「漁師直伝！瀬戸内海のおいしい魚の食べ方」では、事務局がスズキの3枚おろしの実演を行っ



昼食前の記念撮影

た後、参加者は「アカシタピラメのソテー・香草パン粉がけ」と「カキときのこのソテー」を作りました。中には包丁を初めて使う方もいましたが、全員無事に完成させました。この後、参加者は漁業者と一緒に、出来た料理を食べながら話をしたほか、JF兵庫漁連広報部 西本 広幸 主任から兵庫の漁業に関する説明がありました。意見交換では「魚は苦手だったがおしく食べることが出来た」、「今日学んだことを今後PRしていきたい」などの感想のほか、参加した大学関係者から「大学食堂でのメニュー化を進めたい」といった声も上がるなど、有意義な会となりました。

今月の
LOVE SEA 丼

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会

関西学院大学生協の協力で

販売しているLOVE

SEA丼。その第8弾が、

1月14日から3日間限定

で提供されました。14・

15日は「カキ天卵あんか

け丼」、16日は「カキフライ

タルタル丼」とし、食材はJF

室津のカキを使用しました。どの丼も、3日間ともに完売

する人気ぶりでした。



上ヶ原キャンパス PAPA食堂・MAMA食堂にて開催
摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会さんとのコラボ企画です

水産多面的機能発揮対策事業

JF全漁連 先進・優良事例報告会公開

(一財)兵庫県水産振興基金

水産多面的機能発揮対策報告会が1月23日(金)、東京の有楽町朝日ホールで開かれ、全国の漁業関係者ら約500人が参加しました。この報告会は、水産庁が平成25年度から実施している「水産多面的機能発揮対策事業」に基づき誕生した全国48都道府県900を超える活動グループの中から、先進的、優良的な取り組みがある活動組織を選定し、その年度の活動の成果や課題など報告を行い他の活動組織の参考に資するというもので、主催はJF全漁連(全国内水面漁連)です。

報告会にはまず、パルシステム生協連(本部・東京、加盟10生協、加盟組合員約130万人)の渋澤温之商品開発本部長が講演され、生産者と消費者を結ぶ立場から産直のあり方、海の環境を保全し水産物の持続的な利用を実現するための取り組みなど、様々な事例を交えて紹介。そして「食糧が自給できる国を目指す運動の継続や、水産物を食べることで資源や食文化、水産業を守っていききたい」と決意の言葉で締めくくられました。このあと、北海道から長崎県の8活動組織から、藻場・干潟の再生や漁村文化の伝承、地域全体で取り組む海難救助訓練など活動報告があり、コメントーターや参加者から質問、意見など活発な情報交換が行われました。ま



た、会場ロビーで全国16道府県23グループのポスター展示活動報告も行われました。なお、本事業は来年が3年目の節目にあたるが事業継続に財務省のハードルが高く、水産庁、JF全漁連は「継続して活動することが重要だ」として根強く要求活動を続けられ、大臣復活折衝で2割程度の削減に落ち着いたとのことで、JF全漁連の大森敏弘常務は挨拶で「全国で元気に適切に活動していくことが事業継続に繋がる」と実効ある活動と呼びかけられました。

平成27年度 兵庫県漁村子弟育英生募集!!

(一財)兵庫県水産振興基金

(一財)兵庫県水産振興基金では平成27年度育英生を次のとおり募集します。

1 応募資格

- ① 県下の漁業協同組合又は水産系統団体に所属する組合員又は職員の「子弟」及び「遺族」であり、高校又は大学等に在学(入学予定を含む)し、所属漁協・団体の長が育英生として適当と認めた者
- ② ただし、日本学生支援機構等から奨学金を受けている者は、本基金の育英生になることができません。

2 貸与金の額

学 別	貸与月額	
大 学 生	25,000円	
高校生	寄宿生	25,000円
	通学生	20,000円

3 申込方法

所属漁協を通じて「漁村子弟育英生申出票」、「貸与申込書及び添付書類」を提出してください。

提出期日	漁村子弟育英生申出票	平成27年3月31日(火)
	貸与申込書及び添付書類	平成27年4月30日(木)

4 育英生の採用決定

本基金選考基準により審査のうえ採否を決定し、6月中旬頃に所属漁協を通じて連絡します。

5 育英資金の貸与方法

所属漁協を通じて、前期分・後期分をまとめてそれぞれ4月・10月に貸与します。
(なお、初年度前期分は7月に貸与)

6 貸与金の返還方法

- ① 貸与金は無利息とし、貸与期間終了(卒業)後、1年間据え置き2年目から返還していただきます。
- ② 返還期間は、貸与金額に応じて返還開始から5~10年間です。

7 その他

漁船海難遺児に対しては、本基金の事業とは別に、兵庫県漁業協同組合連合会が事務局となって取り扱っている有利な育英制度がありますのでご注意ください。

平成26年度 「ひょうご海の子作品展」 作文部門 受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守ることの大切さと漁業に親しむ心を育ててもらうため、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集したところ、絵画部門1,283点、作文部門61点の応募がありました。

昨年12月16日に絵画部門、1月28日には作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定しましたので、その一部をご紹介します。

(絵画部門は16ページに掲載しています。)

【作文部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	淡路市立学習小学校	5	武田 一花	淡路島の海が大好き
兵庫県教育長賞	洲本市立由良中学校	1	中山 亜依	みんなの海
JF兵庫漁連会長賞	加古川市立両荘中学校	1	清水あすか	「海」
	淡路市立学習小学校	5	藤岡 敬大	海の資げんを大切に
JF兵庫女性連会長賞	淡路市立石屋小学校	4	新居 春奈	魚がすみやすい海作り
	淡路市立学習小学校	5	中尾 胡春	EMだんご体験
JF兵庫信漁連会長賞	淡路市立学習小学校	5	葛原 充和	海の生き物
	南あわじ市立辰美小学校	6	堀 琉望	漁師と民宿
農林中央金庫大阪支店長賞	淡路市立学習小学校	5	笹本 広大	東うらの海
	淡路市立学習小学校	5	大上 晴土	最高のぜいたく

※紙面の都合上、佳作は紹介しておりません。

○JF兵庫漁連HPで、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の作文を掲載中!

○2月下旬頃に、全受賞作品(20作品)を掲載した“ひょうご海の子作文集”を発刊予定です。

<兵庫県知事賞>

淡路島の海が大好き

淡路市立学習小学校 5年 武田 一花

わたしが住んでいる淡路島は、周りが海に囲まれているとても美しい島です。わたしは淡路島の海が大好きです。晴れた日には、太陽の光が海に反射してきらきらとかがやいています。

でも、そんな美しい海でも見るのがいやになることがあります。それは、赤しおが発生した時です。なぜ赤しおが発生するのか調べてみることにしました。

赤しおは、プランクトンが大量に発生して水の色が赤茶色に変わってしまうことです。それによって、水中の酸素が少なくなると魚が死んでしまうこともあります。

赤しおが発生する原因は、家庭から出る生活排水や、農地で使われる化学肥料などが海に流れることも関係しています。

陸地に住むわたしたち人間の活動が、海のかんきょうを悪くしてしまっているのです。

わたしが海を好きな理由は、もう一つあります。それは、海でとれる魚が大好きだからです。

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、水産加工の仕事をしています。漁さんがとってきた、ちりめんやいかなごをほしたり、くきにしたりして市場に出荷する仕事です。とくにおばあちゃんの作るくぎにが大好きです。つやつやと照りがあって、あまくて、かめばかむほど魚の味がしてとてもおいしいからです。

でも、ちりめんやいかなごがとれる量も年々へっているそうです。うめ立てなどによって、海の生き物の住む場所が失われていることや地球温暖化などがえいきょうしているのかなと思います。

漁りさんも海底のごみをとったり、魚の住む場所を作ったりしているそうです。わたしにできることは何かあるかなと考えてみました。ごみをすてないこと、捨てること、できるだけ水をよさないこと。小さなことではあるけれどひとりひとりの心がけが大切だと思います。ごみをすてたりせずして、魚が今よりもっと多くとれて、今より美しい海になってほしいです。

税務署からのお知らせ

平成26年分

確定申告

申告書の作成は
国税庁ホームページが
おすすめ

確定申告 検索

Step1 国税庁ホームページで申告書を作成

Step2

ネットを使って
e-Taxへ送信

印刷して送付

(注) 住基カードに搭載された電子証明書は、社会保障・税番号制度の導入に伴い、平成26年1月以降に申請・交付が開始される「個人番号カード」に搭載されます。

申告と納税

所得税および復興特別所得税
贈与税

平成27年
3月16日(月)まで

所得税および復興特別所得税の確定申告の窓口での
相談・申告書の受付は、2月16日(月)からです。

消費税および地方消費税
(個人事業者)

平成27年
3月31日(火)まで

平成25年分から平成49年分まで、復興特別
所得税(原則として各年分の所得税額の2.1%)
を所得税と併せて申告・納付することとされ
ています。確定申告書の作成に当たっては、
「復興特別所得税額」の記載漏れのないよう
ご注意ください。

- **消費税の申告について**
消費税(地方消費税を含む。)の税率は、平成26年4月1日から8%(*)です。
平成26年分の消費税及び地方消費税の確定申告書は、課税取引を旧税率が適用されたものと新税率が適用されたもの
とに区分した帳簿等に基づき作成する必要があります。
※ 平成26年4月1日以後に行われる取引であっても、経過措置により旧税率が適用される場合があります。
- **贈与税の申告書の作成は「国税庁ホームページ」が便利!**
贈与税の申告書は国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」で作成し、e-Tax(イータックス)で送信でき
ます。作成した申告書などは、印刷して郵送等で提出することもできます。
- **振替納税をご利用の方の振替日は、次のとおりです。**
申告所得税及び復興特別所得税……………平成27年4月20日(月)
消費税及び地方消費税(個人事業者) ……平成27年4月23日(木)
- **平成26年1月から記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大**
個人の白色申告の方で事業や不動産貸付等を行う全ての方は、平成26年1月から記帳と帳簿書類の保存が必要になり
ました。
- **「国外財産調書」の提出について**
居住者(非永住者の方を除きます。)の方で、その年の12月31日において、その価額の合計額が5千万円を超える国外財
産を有する方は、その国外財産の種類、数量及び価額その他必要な事項を記載した「国外財産調書」を、その年の翌年
の3月15日までに提出しなければなりません。
※ その年の翌年3月15日が、日曜日になるときはその翌日、土曜日になるときはその翌々日までに提出しなければ
なりません。

税に関する情報は **国税庁ホームページ (www.nta.go.jp)**

国 税 庁

検 索

e-Taxに関する情報は **e-Taxホームページ (www.e-tax.nta.go.jp)**

イータックス

検 索

海技大学校で安全講習会 淡路地区の各JF青壮年部が参加

JF兵庫漁連

大型船の操船シミュレーターを用い、大型船の動力性能を体験するとともに、心肺蘇生術について学ぶ研修会が1月27日（火）、独立行政法人海技教育機構 海技大学校（芦屋市）で行われ、淡路地区の各JF青壮年部や関係者ら約30人が参加しました。

まず、同校航海科 岩瀬 潔教授から「最近の小型漁船の海難事故から」と題して、海難事故の傾向と事故事例の紹介があり、続いて神戸運輸監視部 筒井 宣利調整官から「危険認知能力開発訓練」として、漁業者が撮影した普段の船上や操業時の写真を用いて、起こりうる危険を参加者自らの経験から予想する訓練を行いました。シミュレーター室では、朝夕、夜間、雨、霧など様々な条件で大型船の

実際に動かすと、操船の難しさが良く判ります



実際に動かすと、操船の難しさが良く判ります



胸骨圧迫は「強く、早く、絶え間なく」が基本

操船を行いました。参加者からは「大型船はすぐには進路を変えられないし止まることもできない」との感想があり、大型船の動力性能を実感できたようでした。

さらに同校航海科 濱田 聡樹助手の指導により、訓練用の人形を用いた CPR（胸骨圧迫・人工呼吸）や AED の使用について救命講習を行いました。胸骨圧迫の力加減を示すインジケーターが付いた人形であったため、体験した漁業者はその目盛を見ながら、力の入れ方を確認でき、分かりやすいと好評でした。

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着よう！

動きやすいライフジャケットもあります！

一人で小型漁船に乗船し、漁ろうをする場合は、ライフジャケットの着用が義務付けられています。



固型式ライフジャケット
モデル：JF一宮町
社領 弘
代表理事組合長

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



是非、試して下さい

モデル：JF兵庫漁連 中谷 明泰 淡路事業所長

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078-942-9272）までお問い合わせください

農産物直売所『かさい愛菜館』 でイチゴの試食会を開催

JA兵庫みらい加西市いちご部会は1月7日(水)、同JA農産物直売所『かさい愛菜館』でイチゴの試食会を開きました。同直売所は、この日が新年の営業始め。訪れた多くの買い物客らが、試食コーナーに並べられた「さがほのか」「紅ほっぺ」「とちおとめ」「根日女の恋詩(さちのか)」の4品種を手に取り、豊かな味わいに舌鼓を打ちました。

今回で10回目となるこの試食会は、市内の農家5軒でつくる同部会が毎年開催。寒暖の差が大きい加西の風土を生かして栽培されたイチゴの消費の拡大を図り、ファンを増やそうと行っています。

試食コーナーでは、生産者らが朝に収穫したばかりの新鮮なイチゴを用意し、来店者に品種やそれぞれの特徴などを紹介しながら加西産のイチゴをPRしました。また、イチゴを使ったマフィンや大福などのお菓子のレシピも一緒に配布し、好評でした。

来店者は「4品種とも甘くておいしかったが、食べ比べをしてみると味の違いがよく分かりました。気に入った品種のイチゴを買って帰りたいです」と笑顔で話していました。

同部会の岡本敏晴部会長は「この試食会が加西産イチゴのおいしさを知るきっかけになればと思



います。熟すまでしっかり待って甘さと酸味のバランスが取れたイチゴを多くの消費者に届けたいです」と話していました。

出荷は4月末まで続き、同直売所などで販売しています。

◀イチゴをおいそうに
味わう来店者



▲生産者に特徴を説明する岡本敏晴部会長(左)

消費者市民社会づくりと 消費者教育の充実強化をめざして

～第26回近畿地区生協・行政合同会議～

テーマ：「地域・行政とのネットワークでくらしの安心づくり」

昨年11月、「第26回近畿地区生協・行政合同会議」が福井商工会議所 コンベンションホール(福井県福井市)にて開催され、兵庫県生協連から2名が参加しました。この会議は、福井・滋賀・奈良・和歌山・兵庫・京都・大阪の近畿2府5県の府県連生協連で構成する「近畿地区生協府県連協議会」の主催により開催。地域住民の安全・安心な暮らしを支えるために、生協と行政のパートナーシップを深めることを目的とし、今回で26回目を迎えました。当日は、厚生労働省近畿厚生局健康福祉部をはじめ、日本生協連、近畿地区2府5県の生協行政担当者および生協連役員計42名が参加。全国の生協の概況、東日本大震災被災地支援の状況報告も行われました。

また、「みんなでつくり、動かす、消費者市民社会」をテーマに弁護士 島田 広 氏が特別報告。「消費者市民社会とは、消費者自身が主役となる社会のこと。自分が単なる商品やサービスの受け手ではなく、社会、経済、環境を公正で持続可能なものに変える力を持ち、その役割を担っている存在だと知ることで、主体的・能動的に行動できる消費者のこと」「消費者市民社会のキーワードは“伝えあい、つながる地域・社会づくり”」などの報告がありました。引き続き、「京都府における消費者教育の取り組み」、「大学生によるくらしのヤングクリエイターの取り組みについて」、「おいしいふくい食べきり運動」、「消費者支援機構関西KC'sの活動報告～集団的消費者被害救済制度の動向」などのテーマに沿った報告が行われ、次世代の活動が多彩に行われている現状を共有しました。その後、開催された懇親会では情報交換を含め、貴重な交流の場となりました。





旬に想う

写真と文
遊方子

テオプロマ・カカオ

◆ チョコレートの濃厚な甘さには、不思議な魅力がある。ひと口食べると口中に広がる香りか、何とも幸せな気分にして呉れる。誰もが好む代表的な菓子だろうが、その原料のカカオについては余り馴染みがない。生産地が限られた熱帯域であり、植物園でも果実を付けた様子を見る事は非常に稀なためである。アオギリ科の常緑小高木。リンネが名付けた学名はテオプロマ・カカオである。年平均気温が約27度で、年間の降雨量が千ミリ以上ないと生育できない繊細な木なのだ。幹に直接、淡いピンクや黄や白色の花をつけ、カカオ・ポッドと呼ぶ果実が成る。白い果肉に包まれた豆が30〜40粒、それを取り出し4.5日発酵させると独特の香りが生まれる。そして天日乾燥した豆は農家の収入源となる。

◆ 古代メキシコのアステカ族は、カカオとトウモロコシを砕いて、バナナや香辛料を加え、チョコラトルと称する「神聖な飲み物」を拵えた。「一杯飲むだけで、何も食べずに一日中歩ける」という薬用効果の高い飲み物で、此れがスペイン人によりヨーロッパへ伝えられ、19世紀には飲み易くした「ココア」が考案された。当初、このドロツとした飲みものは、王侯貴族が愛飲する高級品だったが、やがて庶民の嗜好品として拡がる。ココア製造で出るココアバターに砂糖や粉乳・香料などを混ぜて練りあげ、固めたものがチョコレートである。

◆ 明治11年発行の新聞に、東京両国の米津風月堂でチョコレートを初めて加工・製造・販売したという記事があり、「野古糖」と漢字を充てた広告も出ている。江戸時代に長崎の遊女が、オランダ人からチョコを貰った記録があるそうだが、時期についてははっきりしない。初めてチョコに接したのは明治六年遣欧使節として渡欧の岩倉具視一行だという。国産第一号のチョコレートは、大正七年に森永商店が作った。高価な贅沢品として、庶民には高嶺の花だった。

◆ チョコレートの主原料はカカオマス、ココアバター、砂糖とミルクである。ホワイトチョコはカカオマスを使わないため色が白いのが特徴で、独特の苦みが無くミルク味になっている。遭難した登山家がチョコと水だけで飢えを凌ぎ、六日後に救出されたという話や、フランスのアルル地方では百十二歳の最高齢でチョコ好きの婦人が、長寿の秘訣として一週間に2ポンド(約九百グラム)のチョコを食べていたという。チョコレートの宣伝向けに格好な挿話が沢山あり、エネルギー源として優れた者と実証されている。バレンタインデーには菓子舗に山積みされたチョコを、恋の取持ち品(?)にと、多くの人が買って行く。

大輪田塾だより

漁港と兵庫県の水産業について



漁港について話された山内主幹

近いうちに発生するとされる南海地震への対応などについてしっかりと学ぶことが出来ました。

また「兵庫県の水産業の概要と主な振興施策」では兵庫県立水産技術センター 山村雅雄所長が講義を行いました。兵庫の漁業の特徴から、現在行われている漁場整備や海域環境保全、消費拡大、技術開発など幅広い内容で講義がなされ、どちらも講義後に多くの質問が塾生から出されました。



山村所長による講義

1月の大輪田塾は20日(火)に「漁港について」と「兵庫県の水産業の概要と主な振興施策」の2課題を開講しました。「漁港については」は県漁港課漁港整備班 山内 斉主幹が講義を行いました。県内の漁港の数や種類、

平成26年度 「ひょうご海の子作品展」 絵画部門 受賞者決定!!

11ページに掲載しています「ひょうご海の子作品展」の絵画部門で入選した絵画の中から、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の2点をご紹介します。

【絵画部門】

賞名	学校名	学年	氏名	題名 (敬称略)
兵庫県知事賞	南あわじ市立北阿万小学校	4	松原 茜	きれいな海 もぐりたいな
兵庫県教育長賞	洲本市立洲本第一小学校	1	山岡 和生	うみのさかなたち
JF兵庫漁連会長賞	南あわじ市立北阿万小学校	4	中野 喬佳	兵庫の海の宝
	南あわじ市立広田小学校	5	船城なつき	さあ今から出港だ!!
JF兵庫女性連会長賞	南あわじ市立広田小学校	2	船城めい子	今日は大漁
	神戸市立糺台小学校	3	仲 心菜都	ゆめの中の魚たち
JF兵庫信漁連会長賞	南あわじ市立広田小学校	2	杉谷 怜哉	タコがすみをだした!!
	神戸市立糺台小学校	4	中川 裕貴	未来の海中トンネル
農林中央金庫大阪支店長賞	洲本市立洲本第一小学校	1	仲野 允人	うみのなかまたち
	新温泉町立浜坂東小学校	2	上原 映	魚といっしょにおよごう

※紙面の都合上、佳作は紹介しておりません。

- 平成27年2月5日～平成27年3月末日(土日祝日を除く) 9:00～17:30の間、兵庫県水産会館1階で受賞作品の展示会を開催中! 近くへお越しの際は一度見学してみてください!
- JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載中! (<http://www.seat-sakana.net/>)



<兵庫県知事賞>

きれいな海 もぐりたいな

南あわじ市立北阿万小学校 4年 松原 茜

● 講評

海に潜って何を探しているのでしょうか。何かを発見した表情や体の動きが非常に面白いです。髪の毛の動きも見逃さず、海中での細かな動きをしっかりと表すことができました。また、通り過ぎる魚たち、それだけでなく、左下にはその様子をじっと見つめる魚を巧みに斜めに配しています。さらに筆先を使ったいねいなタッチで海水を表すなど、細部にまで心を配った、映画の1シーンのような作品になっています。



<兵庫県教育長賞>

うみのさかなたち

洲本市立洲本第一小学校 1年 山岡 和生

● 講評

山岡さんの素直で明るい海に対する気持ちを端的に表しています。海の中の生き物の様子や釣りや漁をする人をカラフルな色合いでまとめることができました。絵の具やクレヨンパステルなどを巧みに使い分け、さらに、細かくていねいな絵の具でのタッチを利用して、海水の変化をつけています。その結果、見る人がいつまでも楽しく美しい海であってほしいという気持ちが生まれてくるような作品に仕上がっています。